



国民性調査

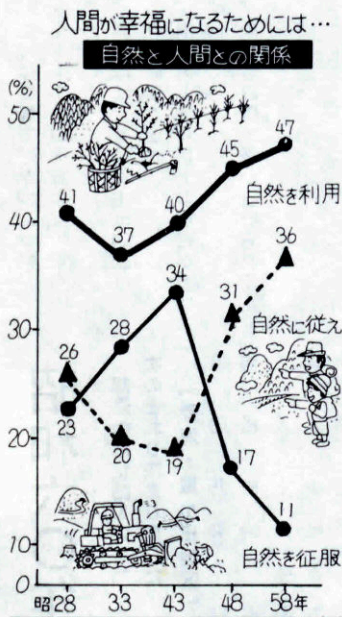


文部省統計数理研究所は、昨年国民性調査の第七回の結果（昭和五八年）を発表しました。三〇年前から五年おきに行っている調査で、同じ質問を長期間続けて、日本人の「心」の動きを追跡しているのが特色です。今回の対象者は全国二〇歳以上の六千人、回収率は七四％でした。そこで、興味ある結果の一部を紹介しましょう。



両者共存の「利用」が増える
人間が幸福になるためには「自然に従う」「自然を利用する」「自然を征服する」のどれが本当と思うか。前回調査（昭和五三年）から、意識の伝統回帰とかUターン現象とか呼ばれる結果が目立っています。三〇年前の当初は古い意見の「従う」が減り、「征服」が増えましたが、一〇年前から「従う」が急増しました。ほかにも新しい意見の伸びが止まり、変化の方向が逆転した質問は少なくありません。この質問の回答は、高度経済成長による歪みを反映したものといえます。ですが、いささか抽象的な「従う」と「征服」の語句の入れ替わりは、この時期に始まったものの考え方の大転回を、先導的、かつ象徴的に示すものでした。

人間は、自然に「従う」だけで



ばわが国の伝統的な道徳です。

「親孝行」「恩返し」が増加



は生きられず、「征服」（自然破壊？）だけでも生きられません。現実的には、両者共存の「利用」が適当でしょうか。今回は「利用」が四七％に伸びました。現実には即した無理のない考え方が広がったといえます。

近ごろの世相からみて、「権利尊重」が強まり「恩返し」は弱まると予想しがちですが、数字は逆になっています。年齢別では、年長ほど伝統的な徳目を多く挙げ、逆に新しい徳目は若い層が多く支持しています。これは以前と同じです。

しかし、最近の二〇歳台は、昭和三八年の二〇歳台に比べると、「親孝行」や「恩返し」を多く選びます。こんなところに、意識の伝統回帰、？といわれる理由の一つがありそうです。

4つの徳目のうち
大切なものを2つ挙げてください

大切な道徳

